

防災に関する研修会と要援護者の救助・支援訓練

下豊内区自主防災会

●防災や防犯、交通安全に関する研修を受講

6月8日（日）、下豊内区自主防災会（甲斐博区長・122世帯）では、同区住民を対象とした防災研修会と地域の高齢者を対象とした避難訓練を下豊内公民館で行ないました。

研修会では、町くらし安全推進室の清水明室長を講師と



して、防災や防犯についての対策法などを説明し、日ごろから身の回りで気を付ける点を確認しました。甲斐区長は非常持ち出し品の準備や、災害が発生したときの行動などを住民に注意しました。

●要援護者の救助訓練や非常時持出品確認を支援

避難訓練は、集中豪雨による地域内の河川の氾濫（はん



下豊内区長
甲斐 博さん

下豊内区は南谷川や湯田川、免の山などの災害発生の可能性が高い場所がたくさんあります。そのため、住民全員に非常持出品の準備や避難時の安全確保などを行い、防災への意識を強く持ってもらうことを目標にしています。もしものときに助け合う「共働の精神」を持つことで、住民同士の結束を強くし、より良い集落づくりにもつなげていけたらと思います。

らん）、土石流の発生とがけ崩れの危険が生じたことを想定。訓練のテーマに、高齢者などの災害時の避難において支援を必要とする「要援護者」の救助を掲げて取り組みました。災害発生の際を合図に、同会役員と地元消防団員が要援護者である高齢者宅へ向かいました。同会役員は高齢者の救助と同時に、高齢者の自宅で非常時の持出品のチェックなども行い、日ごろの防災への備えを点検しました。その後、避難場所の「町農業研修センター」に避難誘導し、避難状況の確認をしました。

訓練終了後、甲斐区長は「災害などの緊急なときは、訓練どおりに行動することは難しいです。そのため日ごろから備えをして、自分の命を守ることを第一に心掛けてください」と住民に呼び掛けました。

同区では毎年6月と12月に防災訓練を行い、住民の災害対策への意識の向上を目指しています。

自主防災組織を作ろう ～自分たちの地域は自分たちで守る～

■「自主防災組織」とは

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通の目的を持って、地域の人たちが自発的に結成する防災のための組織です。

災害が起こったときに消防団員などが現場に到着するまでの間、地域の人たちが協力しながら人命の救助や消火活動をして、被害を最小限にとどめるために作られています。

■「自主防災組織」の必要性

災害が発生した場合、消防署など

の防災関係機関は全力で防災活動を行います。災害によっては情報網・交通網の寸断、同時に多発する火災などの悪条件が発生し、その活動機能の低下が予想されます。このような事態に直面したとき、地域がまずは自分たちで消火・救出救護活動などを行わなければなりません。このために自主防災組織を結成し、日ごろから訓練を積み重ねておくことが必要となります。

■組織づくりから活動までの手順

①自治会の総会などで、自主防災組織の必要性を話し合う。

②町（くらし安全推進室）や消防署に相談し、結成方法や防災計画の立て方などを説明してもらう。
③自治会員に組織結成の主旨や活動内容などを説明し、同意を得る。

結成後は、活動計画書や情報連絡網などを作成し、住民に周知します。また、定期的に防災訓練を行い、組織の防災活動の強化を行います。

この「自主防災組織」は、災害発生時に最も頼りになる地域住民同士の助け合いを組織化したものです。いつやってくるかわからない災害に、地域ぐるみで備えましょう。